

対話型鑑賞授業のすすめ方は？

R7. 4. 1

対話型鑑賞はグループで実施します。全体の進行はアドバイザーがすすめます。各学級担任の先生にはじめと終わりの挨拶をお願いします。具体的には1学級の中の一（ひと）班の児童生徒に対して1名の「ファシリテーター」が付き、その班の司会役を務めます。「ファシリテーター」は班の進行を行いつつ、児童生徒から自由な感想や発言を引き出していきます。

（※一班は、基本3人から4人で構成し、例えば1学級32名の学級では、4人組として8班なので、8名のファシリテーターが付きます。ファシリテーター数に余裕がある場合は、サブのファシリテーターをつける場合もあります）

○授業の流れ

- ① 担任 授業のめあて、はげまし
- ② アドバイザーの説明

ファシリテーターとグループ活動

アートカード（1）「共通点を探せ」

アートカード（2）「つながる物語づくり」

アートカード（3）「お気に入りの教えて」

※もしくは ・ 絵画パネル（プロジェクター）で対話型鑑賞

・ デジタルミュージアム紹介

- ③ 担任 教室で児童に感想記入指示、担任のアンケートも依頼
- ④ 授業後 ファシリテーター振り返り 授業のまとめ

※ファシリテーターについて

狭義では、会議で参加者の意見を引き出しながら合意形成を促進する進行役を指します。広義では、組織やプロジェクトチームにおいて同様の効果をもたらすリーダー的存在をファシリテーターと呼ぶこともあります。または、支援者の役割を担います。

ファシリテーターの役目は一方的な説明ではなく、児童生徒同士の対話の促進です。児童生徒がお互いの感想を聞き、自分の考えに取り入れるサポートをしていきます。児童生徒はこのような時間を通じて、1人で鑑賞するより豊かな時間を過ごせるのです。

作品1点ずつをじっくり味わい、グループで共有する時間は、児童生徒にとって全く新しい体験となります。

※アートカードについて

船橋市における「対話型鑑賞教育推進事業」において使用しているアートカードは、船橋市の所蔵作品から船橋ゆかりの作家の作品や名画など44点を「ふなばしアートカード」として作成した船橋市オリジナルの美術教材です。